

相国寺御用達

京銘菓

雲龍

雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……。



圓明

平成二十四年 夏号(第九十八号)



大本山相国寺
相国会本部



暑中お見舞い申し上げます

表紙写真解説

「天響楼(てんきょうろう)」
「天響楼」は、平成二十二年夏に建立し落慶法要が行われた新しい鐘楼(しょうろう)です。この鐘は、中国開封大相国寺により二つ鑄造され、その一つが日中佛法興隆・両寺友好の記念として寄進されたもので、「友好記念鐘」の銘や「般若心経」の経文が刻されています。

目次

カラーグラビア◎本山消防訓練・AED講習会	2
◎東日本大震災物故者一周忌「天響楼」鎮魂の鐘つき	4
御挨拶	6
宗務総長 山木 康 稔	
古稀の徒然に	14
演劇塾 長田学舎 斉藤 維 明	
緑酒松花春	22
霊雲寺住職 三代 政 道	
本山だより	24
教区だより	39
相国寺史編纂室設立の経緯	47
相国寺史編纂室長 緒方 香 州	
教化活動委員会活動報告	58
教化活動委員会委員長 佐分 宗 順	
承天閣だより 七類堂天谿展	65
宝物拝見「古染付高砂手花入」	66
カラーグラビア◎ワシントンD.C.若冲展法要	67
◎相国寺山外塔頭 眞如寺 江上正道新命住職入寺披露	68

AED 講習会
本山消防訓練



AED講習を受ける参加者



初期消火にあたる婦人衆



東日本大震災物故者一周忌
「天響楼」
 鎮魂の鐘つき



大震災発生時刻に合わせて鐘をつく有馬管長



(本山日より20ページ参照)

鐘つきに参加し、祈りを捧げる拝観客



相国会総裁 有馬 頼底

副総裁 山木 康稔

会長 片岡 匡三

本部長 矢野 謙堂

管 承天閣美術館館長 有馬 頼底

宗 務 総 長 普廣院住職 山木 康稔

庶 務 部 長 光源院住職 荒木 元悦

同 部 員 豊光寺副住職 佐分 昭文

法 務 部 長 慈照院副住職 久山 宗順

同 部 員 是心寺住職 和田 哲永

教 学 部 長 大光明寺住職 矢野 謙堂

同 部 員 眞如寺住職 江上 正道

同 部 員 光源院副住職 荒木 泰量

相国寺史編纂室長 長得院住職 緒方 香州

承天閣事務局長 長栄寺住職 鈴木 景雲

同 参 事 大應寺住職 久山 弘祐

同 執 事 林光院住職 澤山 宗泰

同 執 事 慈雲院住職 草場 周啓

宗議会議員

第一教区 長得院住職 緒方 香州

第二教区 竹林寺住職 牛江 宗道

第三教区 福圓寺住職 大谷 昌弘

第四教区 東源寺住職 角野 元保

第四教区 善應寺住職 五十嵐 祖傳

第五教区 保壽寺住職 藤岡 牧雄

第六教区 光明寺住職 松本 憲融

同 執 事 桂徳院住職 小出 量堂

同 執 事 瑞春院住職 須賀 玄集

同 執 事 養源院住職 平塚 景堂

宗務支所正副長

第一教区 正養源院住職 平塚 景堂

第二教区 副 竹林寺住職 牛江 宗道

第三教区 本派庶務部長兼任 正善應寺住職 五十嵐 祖傳

第四教区 副 眞乗寺住職 木下 雅教

第五教区 正 保壽寺住職 藤岡 牧雄

第六教区 正 光明寺住職 松本 憲融

御挨拶



宗務総長 山木康稔

季節の移り変わりが、これ程早いものかと昨年五月に宗務総長を拜命致しましてより一年以上が経過しました。本派御住職方の外護、その他沢山の方のご協力を賜わり、内局員一同衷心より感謝申し上げます。

円明誌に目を通して下さいます皆様には、恙なくお過しになつておいででございますか。特に夏風邪などは、治りにくいと云われています。何より健康第一ですので、御留意の上酷暑を乗り切つて下さい。

さて、臨濟宗相国寺は御所の北側に位置し、境内に足を踏み入れて頂きますと、すぐ西側には蓮池(今年はフェンスの上半分をはずし、蓮の

カメラスポットになった)を望み、更に進めば、松林の間を吹き抜けて来る涼風を感じながら、最も大きな重要文化財に指定されております法堂が目に入ります。火災や戦乱で四度焼失し現在の建物は五建目です。この建物のお蔭で本山の面目が保たれていると申しても過言ではないと思います。この法堂は慶長十年(一六〇五)豊臣秀頼公により寄進され、現存する日本最古の法堂建築で、本来、説法する場所なのですが、現在佛殿を兼ねており、本尊釋迦如来、向つて右脇侍には迦葉尊者、左には阿難尊者が安置され三体とも運慶作で、天井の蟠龍図は狩野光信筆であります。天明の大火(一七八八)では奇しくも焼失を免れ、残念乍ら回祿にかかった方丈にはかつて、狩野孝信筆の障壁画があり、光信と孝信兄弟の絵が存在して見事であつたと伝えられています。

ここで「奇しくも」と申し上げましたのは、天明の大火で開山塔が焼けて、火が回廊づたいに法堂側へと延焼して来る時、当時本山常住の職についておられた塔頭玉龍庵(現玉龍院)第十一世天真集膺和尚が、回廊を毀却して延焼を防止されたからなのです。依つて、今日法堂の偉

容を目の当たりにする事が出来る訳であります。これを契機に回廊の柱、天井は壁土で塗り込められました。一月二十一日には天真和尚の毎歳忌を必ず修行致します。

最近、特に都会では火災の発生と共に焼死者が目立ち、文化財の焼失も多く、防火訓練の大切さを強く感じている所であります。

勿論、本年も既に本山では法堂より出火の想定で、京都上京消防署の協力を得て、消防車・はしご車の出動放水、当方も搬出・消火器・放水銃等大がかりな消防訓練が塔頭在行者・本山三事務所・山内寺庭なども動員して行われました。人少の時間帯にでも、消火器等は外部からの出入者にも、良く目に付く所に置くことも大切であり、日頃から防災、避難路を念頭に置いておけば、非常時には、いちはやく、災難から身を守ることに役立ちます。防火訓練後は承天閣二階講堂に移って消防署員による「AEDの取扱いと実習」を全員が受けました。

東日本大震災物故者の一周忌法要は、三月一日に厳修回向致しまし

て、十一日には洪音楼の古鐘と天響楼の中国鐘とを交互に大小鳴鐘の形で管長猊下を始め、内局員・雲衲のほか、一般参拝客も鐘をつく意図を汲んで参加して下さい、鎮魂と故人の御冥福、被災地復興への祈願をこめて撞き修めました。

被災地からはまだ復興の確かな足音が聞えぬ先に、大飯原発三、四号機の再稼働の聲が上り始めています。ここでもう一度、大震災時、福島での原発事故を顧みまして、私達はまず何を考えなければならぬのでしょうか。専門家にしか事の詳細は分らないに致しましても、東北の現況のすさまじさからは、当時それに携わる人は被爆という危険を承知で、生命を賭して収束に力を注がれたといえます。ここに於いて、私達はもつと生命の大切さを叫びこれを根元に据えてかかる必要があると思います。美しい日本とそこに住む住民の生命は、自らの手で守護せずして日本の明日はありません。

日本は今、少子化傾向が年々進んでいます。これからの大切な人材の育成は日本の発展を左右する大きな課題であります。人間の生存は、延

いては動植物の生育と根本は同じで、自然と共存関係にあることは明らかです。この事につきまして、今世界は、日本がこの逼迫した状況の中から如何に抜け出すかを注目的にしているのです。原発「零の日」を経験した日本を賞賛した国もあつたとか。皆んなで、叡智を集めて後世、子々孫々にまで放射性廃棄物問題を残すことなく、遠い将来をも見つめてきちんと答えを出して、太陽、風力、地熱といったクリーンエネルギーを視野に入れて、世界に模範を示さねば世界に先鞭をつけたことになりません。先人は研鑽を積んで今日を築いて来られました。いつの世にもパーフェクトは有り得ない事は分っています。しかし人間の力で収束させ、押さえ切ることが出来るものには限度があり、敢えて性急に手を出さないという、今こそ辛抱しじょうの為所で宗教的な寛大さと心が要求される時であります。

去る早春には米国ワシントンにある米国屈指の美術館、ナショナルギャラリー（通称N G A）に於きまして一カ月の会期じやくちきで若冲展が開催さ

れました。当地では、日本から一九一二年、最初に贈られ植樹された桜の開花時期に合わせて毎年桜祭りが盛大に行われています。本年二〇一二年は丁度その百年目に当り盛大な行事が催されました。その内の一つとしてN G A側から、宮内庁三の丸尚蔵館へ若冲展開催企画の為若冲筆動植綵絵どうしよくさいえ三十幅の出陳依頼となり、この承諾を受けて、相国寺へも若冲筆の釋迦如来、文殊・普賢菩薩の三尊仏の同依頼が参りました。平成十九年には相国寺で、平成二十四年には米国に於いて、釋迦三尊と動植綵絵三十幅とが全部揃って再会を果しました。N G Aには、相国寺から有馬管長猥下ほか四名が参上し、三尊仏の法要を三回①記者内覧会②VIP招待者③オープニングセレモニー式典と三日間に分けて厳修致しました。

駐米特命全權大使藤崎一郎氏はじめ、日本経済新聞その他多勢の方々のご尽力によって三月三十日～四月二十九日の間に、一般公開が出来、入館者数二三一、六五八人（当館歴代七位との報告です。但し、入館は無料です）と盛況でした。展覧会の開催に際し、各方面より種々ご協力を

頂きました多くの関係機関並に諸氏に、当紙面を通じて御礼と謝意を申し上げます。この絵にこめられた十八世紀後半の日本画の色彩と画題の豊富さは、きつと米国の人達を魅了し日米友好親善に貢献したものと思います。作者の若冲居士(伊藤若冲 一七一六―一八〇〇 汝鈞と号す)は相国寺の山内塔頭慈雲院第九世梅莊頭常和尚(大典禅師 一七一九―一八〇一)の膝元で禅の鉗錘を受けられてその真髓を込めて、弟の冥福と両親の永代供養として、相国寺の聲明懺法会に永く資する為に、心力を盡して三尊仏と動植綵絵合わせて三十三幅を完成し、当寺に寄進されたのであります。後に、故あって、現在は三尊仏のみ、相国寺の所蔵となっております。若冲をしてこの三十三幅は永遠の時間を生きつづけると云わせたのも、底流に仏教思想があつたればこそと云えると思います。二百年程前に、現代にも通じる平和で、なごみの世界はかくあるべしという仏の世界(極楽浄土)を具現しているとも受けとることが出来ます。

展覧会では大きな長方形の一室に正面に三尊仏、両サイドに各十五幅の動植綵絵が展示され、中に入りじつとこの中に佇んで居りますと、さしずめ曼荼羅の世界(諸尊の悟りの世界)に入っている様な不思議な感覚を味わうことが出来ました。

この度、山内にある辨天堂の老朽化がすすみ、改築を余儀なくされ、辨財天像の遷座及び起工式を五月七日に執り行いました。辨財天は当初御所の白雲辨財天より御魂を頂いて、当所に祠が建築されたという言葉い伝えがあります。

今年は各地域によって要請の差こそあれ、この夏、皆様で節電に協力致しましょう。「辛抱」もつらい事に耐えるという風にはかりでなく、忍耐も生活の一部と思つて、一気に乗り越え生活の時間配分を考慮の上、余力を他へ振り向けて行く位いの余裕を以つて生活を楽しんで下さい。殊に、「吾唯足るを知る」という本当の意味、貪りを捨てて少々の不足に大騒ぎをせず、「厳しく自らを律して足るを知る人こそ心豊かなり」で、ここで身心を共に強く鍛え上げる良い機会にして頂きたいと存じます。

『古稀の』

徒然に』

演劇塾 長田学舎 齊藤維明

朝かえより回かえるに 日々春の衣しちいを典しちいれし

毎日江かわの頭ほどりに 酔よいを尽つくして帰かえる

酒債尋常しゅざいじんじょう 行いく処ところの有あり

人生七十古来稀こらいまれなり

光陰矢の如しと言いますが、ついこの間、還暦を迎えたように思っていました。早や今年古稀を迎えます。月日の経つことが何と早い事かと、改めて思わずにはいられません。

冒頭の詩は、中国唐の時代の詩人、杜甫の「曲江」と云う詩ですが、これが古稀の由来とされています。古稀を迎えるに当り、心に思うままに書き留めました。

戦時中から戦後と大混乱の時代に幼児期、子供時代を過しました。そして、復興から高度成長と言われた日本が一番輝いていた時代に、青年、壮年期を送って来ました。更に今、IT時代、情報化時代と呼ばれる便利な事、便利な物が溢れる社会に老齢期を迎えています。又一方

で、貧富の差が拡大する格差社会などと云う、将来に不安を感じる時代に生きることにもなります。

昨年の三月の東日本大震災は、地震、大津波、福島の東京電力の原発事故と三重の大惨事でした。未だ復興の途は遅々としていて、被災地の様子、被災者の方々の姿をテレビの報道で目にする度、心が大変痛みます。

十七年前の阪神淡路大震災も大変な惨事でした。西宮で伯母の家族が被災した為、震災の三日後、ポリタンクに御所の梨の木神社の井戸水を汲んで届けたことがありました。混雑した電車を乗り継ぎ、西宮北口駅に降り立った時想像以上の惨状に、呆然とした事を覚えています。二、三キロの道程でしたが、道路が至る所で陥没したり、隆起して歪んでました。又、道路際のほとんどの建物、ビルが崩れていました。特に高速道路の橋桁が何ヶ所も落ちていたのを生で目にした時は、全身が震えました。直接被災した訳でもなかったのに、それ程の衝撃を受けたのですから、被災した人の驚愕と喪失感はとても推し計る事が出来ません。その後の復興成った神戸などの街の姿を見る時、日本人

の底力と云うか、忍耐強く逞しい活力を感じます。東日本の被災地も、必ず旧に倍した復興が成ると信じています。ただ、福島原発事故で放射能に汚染された被災地の復興は、目に見えない放射能との永く厳しい闘いになるでしょう。

へハァー 遙か彼方は 相馬の空かよ

ナンダーコーラヨート

相馬恋しや なつかしや

ナンダーコーラヨート

私の大好きな民謡の一つ、新相馬節に唄われている相馬の空、そして山、川、海が蘇るのはいつのことになるのでしょうか。

この原発事故の影響で、日本の各地の原発の稼働が全て止まりました。今夏の電力供給が逼迫し、特に関西電力管内では、十五パーセントもの電力不足が言われ、一時的な停電規制があるかも知れません。

停電と言えば、子供の頃で思い出すことがあります。



私の生家は、北海道の北部、宗谷地方の山村の禅寺です。戦時中から戦後にかけての混乱した社会状況の中で、子供時代を過しました。特に戦時中の事は、ほんの幼児でしたからほとんど記憶がありません。それでも、今から思えば、多分終戦直前の昭和二十年の夏の事だった

のでしょうか。霞のかかったような朧げな記憶ですが、小学校の校庭と思われる所で、竹槍の訓練をしていた人達を、父親に肩車してもらって見ていた思い出があります。又、別の時に、川の堤防の原っぱを、鉄砲らしき物を肩にした若い男の人達が、大声を出して駆けていた姿を木の陰から、恐る恐る眺めていた記憶も有ります。後年、その鉄砲らしき物(木製の鉄砲の形をした物)が、小学校の物置小屋に放置されていたのを見つけました。

ちょっと話が脇道に逸れましたが、終戦から数年経っても、電力事情も悪く、しょっちゅう中停電が有りました。ですから、どこの家でもランプは必需品でした。私の家は大家族でしたので、ランプが何台も有り、その掃除が大変でした。一晚使用すると、火屋(ほや)(ランプの火をおおうガラス製の筒)が黒く煤けます。それを昼の間にふき掃除するのです。「コーちゃん(私の子供の頃の愛称)が一番上手だから」と、母親に誉められたこともあって、嬉々としてランプ掃除をしたものでした。そして、大人が上手に出来ない事を上手に出来る喜びと、皆の役に立っている事を、少し誇らしく感じたものでした。

昨年、ブータン王国の国王夫妻が来日されましたが、素朴で温和、しかも清廉な人柄に被災地の人々ばかりでなく、日本中の人達が癒やされ、勇気づけられました。ヒマラヤの懐に抱かれたブータン王国は、九州より少し大きいだけの国です。人口も七十万人も満たない、経済的にも決して豊かと言えない小さな国です。しかし、国民の九十五パーセントの人が、「自分は幸福」と感じていると言われています。その尺度は、人間関係——家族、友人、近所の人、地域の人が支え合い助け合うことが出来る事で感じる、幸福感にあると言われています。物質的、経済的な豊かさに幸福度を計る日本人の意識とは少し違うようです。



昨年の大震災以来、「絆」と云う事が随分見直されてきていますが、未だ家族的な小さな枠でしかないように思います。せめて地域的な大きさで、人を思いやり、信頼し合うことの輪が広がれば、日本人の感じる幸福度も違って来るように思うのですが。

戦後の貧しかった時代、皆が助け合い支え合った中に、今忘れてしまっている幸福感があったのかも知れません。人の役に立つ事に喜びを感じた子供の頃を懐かしく思い出すとともに、今一度健康で生かされていることに感謝して、これからの人生を、前向きに有意義に送りたいと念っています。

平成二十四年度(雨安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都 (南禅) 光雲寺徒	中川秀峰	和歌山 (妙心) 観福寺徒	足助厚堂
京都 (相国) 光源院徒	荒木文元	島根 (妙心) 海禅寺徒	園山大穰
石川 (国泰) 吉祥寺徒	山田慈康	福島 (妙心) 忠教寺徒	阿邊宗寛
富山 (国泰) 興国寺徒	桃井宗惇		

「緑酒松花春」

靈雲寺住職 三代政道

昨年九月末、本山の有馬頼底管長猊下が出雲に来られ、御親教という大行事が終わりました。その時記念品として頂いたのが「緑酒松花春」（緑酒松花の春）という墨蹟。九月は「紅葉の始まる秋」なのに何故「松や桜が素晴らしい春」なのでしょう。

山寺の離れの客殿での到着茶礼の時、先ず猊下から「ここでは三泊してるよな」というご挨拶がありました。そうなんです。実は約四十年くらい昔の話ですが、落慶行事に管長様のお供をして出雲へ来られた若き頼底様を、たまたま我が家の離れでお泊めました。丁度春でしたが、咲き乱れる桜の花と、三百年以上の寺の歴史を感じさせる庭の名松、さらに彼方の三瓶山の絶景を見渡しながら、話が弾みました。或る晚旨い酒を飲み明かし、二人で一升瓶を空にしました。それをおっしゃっている言葉なのです。

当時、東京と名古屋での生活にピリオドを打って、やっと帰郷して間もなかった私は、酔いに任せて学校に勤めながら寺を守ることの悩みと、様々な不満をぶちまけました。それに対して「資格なんか無くても、教師として仏の教えを説けばいいじゃないか。そういう気持ちになれなかったら、寺を出てしまっただな」と叱責されました。この言葉で私は立ち直りました。その後大象窟老師、止庵老師のお二人のもとで修行して住職になり、寺を守って現在に至っています。

「論語」に「朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや」という有名な言葉があります。猊下は私より僅か一歳上の同世代です。でも「朋有り」ではなく、「師」有り遠方より来たる、亦喜ばしからずや（師と呼べる方がいて遙々遠方から来て頂いた。なんと嬉しいことではないか）というのが、今回の私の思いでした。

墨蹟は早速表装をして、床に飾っています。

現在我が家は六人家族。寺庭二人。息子と孫二人の三人が小僧。住職一人。六人全員が僧籍を持っています。小僧三人は何れも本山へ出掛けて得度式を挙げて頂きました。お経の巧いのは中学生の孫達。大きな声で周囲を引っ張って行きます。

檀家の皆さんも、それぞれの家に一冊ずつ経本がありますが、法事では寺から持参した経本を全員に渡して、皆で般若心経、観音経、坐禪和讃を読みます。御親教の時には、ほんとうに合唱のように経声が聞こえました。法事は皆で元気でむつまじくしている様を、仏様に見て貰って安心して貰うんだという考えで、賑やかに行われます。

寺の跡を継いで良かったなど、今になってつくづく思います。これも頼底管長猊下のお陰です。

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。管長猥下を導師に韜光室老大師、山木宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○同宗連第一連絡会

十二月十九日、東山区の建仁寺で、二十三年度第三回同宗連(「同和問題」にとりくむ宗教教団連帯会議)第一連絡会が開催され、荒木教学部員が出席した。

○「天響楼」除夜の鐘

十二月三十一日、「天響楼」において鐘楼完成後初の除夜の鐘撞きが行われた。これは中国陝西省のNPO法人文化芸術国際協会の依



除夜の鐘世界放送

頼によるもので、日本の風物詩を中国に紹介するだけでなく、平和祈願と両国の交流を目的としたものであった。当日は管長猥下と中国青龍寺寛昭住持が墨蹟書画交流を行い、年越しに合わせて管長猥下や山木宗務総長をはじめ寛昭住持、中国副総領事、京都府副知事らが順に鐘を撞いた。尚、この模様は世界十六カ国に配信された。

○親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

一月十一日、本願寺にて行われた「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」に山木宗務総長、江上教学部員が出席した。例年は聖人の命日に合わせて「報恩講」が行われているが、今年は正当年にあたり、八日間の大遠忌のうち三日目の日中法要に出席し、和讃を中心とした念佛を唱える荘厳な行事の一端にふれた。

○「京の冬の旅」特別公開

一月十一日より三月十八日まで、京都市観

光協会主催の「京の冬の旅」に協賛し、法堂並びに開山堂が特別公開された。辰歳ということもあり、法堂「蟠龍図」参拝者も多く盛況であった。また山内塔頭の大光明寺も本尊・普賢菩薩や庭園を特別公開した。

○相国寺旧境内地遺構にて諷経

一月十六日、相国寺に隣接する同志社大学内(山内塔頭の瑞春院南側)で、キャンパス工事に際し事前の発掘調査が行われ、十七世紀から十八世紀の墓地の遺構が出土した。主な出土品は、土師器はじきなど土器のほか木棺、甕棺かめ、蔵骨器(骨壺)や埋葬された人骨であり、現場は長く墓地であったことが伺えた。大学側の依頼もあり、山木宗務総長以下本山僧侶の他に大学工事関係者、発掘関係者も加わり慰霊の諷経を行った。

○臨黄合議所理事会

一月十七日、臨黄合議所理事会が京都ブラ



同志社大学新校舎発掘現場「墓地遺構」諷経

イトンホテルにおいて開催され、山木宗務総長が出席した。

○本山消防訓練・AED講習会

一月二十三日、冬の文化財防火運動の一環で京都市消防局上京消防署指導の下、消防訓練並びにAED講習会を行った。相国寺では僧侶、寺族、職員、警備員らで構成する自衛消防隊（隊長・山木宗務総長）を組織しているが、消防士や地元消防分団と行う大規模な消防訓練は八年ぶりであった。訓練は指揮者のもと法堂より出火の想定で、警備員による通報、消火器による初期消火、文化財搬出、人命救護、消火栓と放水銃による一斉放水などが各班により手際良く行われ、防火・防災意識の向上に努めた。訓練後には、上京消防署長と山木宗務総長より講評があった。

続いて承天閣美術館二階講堂において、消防署員指導によるAED講習会が五年ぶりに開催され、鹿苑寺・慈照寺職員も合わせ総勢

四十名が、心肺蘇生の応急手当講習を受講した。

（巻頭カラー2ページ参照）

○東京別院庫裡上棟式

二月十日、東京都港区南青山の相国寺東京別院において、庫裡上棟式が行われた。当日は山木宗務総長、佐分財務部長、澤鹿苑寺執事長、矢野教学部長、久山財務部長、荒木教学部長のほか、別院監護の中村氏、工事関係者らが列席し、式後には新築庫裡と方丈・客殿建立の報告会も行われた。



東京別院庫裡上棟式

○第一教区総会

二月二十二日、第一教区総会が管長猥下以下第一教区各寺院住職、副住職が出席し開催された。

○第八回臨黄教化研究会

二月二十三日、二十四日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第八回臨黄教化研究会が開催され、佐分昭文師（第一教区豊光寺副住職）、澤宗秀師（同林光院副住職）、荒木泰量師（同光源院副住職）、牛江宗道師（第二教区竹林寺住職）、佐々木契堂師（第三教区天正寺住職）、石崎靖宗師（第四教区海岸寺住職）、松本昭憲師（第六教区光明寺副住職）の七名が参加、また開講式と基調講演には山木宗務総長、矢野教学部長、江上教学部長も出席した。また基調講演後、班別で行われる分科会では、矢野部長も加わり盛んな討議が行われ、他派の和尚方と共に研鑽を積んだ。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

二月二十六日より二十八日まで、天龍寺に於いて布教師特別研修会が開催され、布教師会副会長の松本憲融師(六教区光明寺住職)をはじめ、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、石崎靖宗師(四教区海岸寺住職)、福場宗康師(五教区萬福寺住職)の本派布教師が参加した。開講式および理事会、閉講式には山本宗務総長、矢野教学部長も出席した。

○東日本大震災物故者一周忌法要厳修

三月一日、祝聖の出頭を引き続き「東日本大震災物故者一周忌法要」を法堂にて厳修した。当日は管長猥下以下一山和尚のほか、相国寺総代二名、本山御用達組合の相楽社より三名が列席し焼香した。

○同宗連第一連絡会

三月一日、北区の大徳寺で、二十三年度第四回同宗連『同和問題』にとりくむ宗教教団連

帯会議)第一連絡会が開催され、江上教学部長が出席した。

○定期宗会

三月五日、平成二十三年度定期宗会が本山会議室で開催された。議事に先立ち管長猥下列席のもと全員で開山諷経、東日本大震災物故者追悼諷経を行い、その後松本憲融師(六教区光明寺住職)を議長に選出し審議に入った。代議員・特選議員交代承認に続き、平成二十二年相国寺派・相国寺本山決算報告、二十四年度相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十二年決算・事業報告、二十四年度予算案・事業計画案が承認可決された。

引き続き臨済禅師一二五〇年・白隠禅師二五〇年遠諱に向けての事業計画、教学部と教化活動委員会より活動・予定の報告が行われ終了した。



東日本大震災物故者追悼諷経

○東日本大震災物故者一周忌「鎮魂の鐘つき」

三月十一日午後二時四十六分、昨年の大震災発生時刻に合わせて、鐘楼「洪音楼」と中国から寄進された「天響楼」の鐘を交互に撞く大小鳴鐘を行い、犠牲者の追悼を行った。震災発生時刻に撞き始めた「洪音楼」の鐘の音を聞き、管長猥下が焼香して「天響楼」の鐘をつき、山本宗務総長がこれに続いた。

またその場に居合わせた拝観客約三〇名にも順に鐘を撞いていただき、物故者の霊に手を合わせた。(巻頭カラー4ページ参照)

○二十四年度春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、「京の冬の旅」特別公開に引き続き平成二十四年度春期拝観を開催した。今期も法堂、開山堂、宣明(浴室)を公開し、一六、九三八名の参拝があった。秋期特別拝観は、本年より期間を九月二十五日より十二月十五日に変更し、開催の予定である。

○瑞林寺夢窓國師每歳忌

三月二十五日、三教区瑞林寺(長谷寺高山宗親住職兼務)では開山每歳忌が厳修され、緒方相国寺史編纂室長と佐分庶務部員が拜請を受け出頭した。
(関連記事41ページ)

○春秋巡教

本派布教師による二十四年度定期巡教は、松本憲融師(六教区光明寺住職)が三月二十九(四月十三日)に佐賀県の南禅寺派寺院十六ヶ寺、東福寺派一ヶ寺で布教した。

○伊藤若冲筆『釋迦三尊像』アメリカへ出展

三月三十日から四月二十九日まで、伊藤若冲筆の『釋迦三尊像』がアメリカ・ワシントンD.C.の「ナショナルギャラリー」に出展された。これは「ワシントンの桜」で知られる首都ワシントンD.C.ポトマック河畔の桜並木が、尾崎行雄(琴堂)により寄贈されてから百周年に当たるため、その記念事業の一環で、同ギャラリー

ーや宮内庁などが主催し開催された「色彩の世界・伊藤若冲 日本花鳥画展」への展示要請に応えたものである。合わせて宮内庁三の丸尚蔵館より『動植綵絵』三十幅も出展されたので、三十三幅が出そろうのは、平成十九年に承天閣美術館で開催された「若冲展」依頼五年ぶりとなり、もちろん海外では初のことであった。

一般公開に先立ち三月二十六・二十七両日には招請をうけた有馬管長殿下を導師に、山本宗務総長、矢野教学部長、久山財務部員が釈迦三尊像前で、記念の法要を行った。
(巻末カラー67ページ参照)

○第四・第二教区合同少年・子供研修会

四月三日、平成二十四年度の第四教区若狭少年研修会と第二教区子供研修会が、昨年に引き続き合同開催で本山大書院にて行われた。今回は学童七十一名、寺院十一名、役員十三名の計九十五名が参加した。登山した少年少女



大書院にてお経を唱え(上)、坐禅をする(下)少年少女たち

たちは、般若心経、消災呪を唱え、山本宗務総長の法話を聞き、三十分の坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアフアイルが送られ、別室にて本山女子職員お手製のカレーライスを頂いた後、それぞれ次の目的地へと向かった。(関連記事39・45ページ)

○大光明寺徒弟山崎承眞尼遷化

四月十一日、大光明寺徒弟山崎承眞尼が、疾により加療するも薬石功無く百一歳で天寿を全うされた。同尼は明治四十四年生まれ、昭和三十九年に大光明寺に來られ、歴代の大光明寺住職、故山崎大耕管長猥下、故大津樞堂管長猥下、そして現有馬頼底管長猥下をよく支えられた。また、大津管長時の昭和四十九年に得度され沙弥職を、その後平成九年には藏主職を稟承されていた。

通夜は同十二日、告別式は翌十三日に有馬管長猥下を導師に、相国寺一山、縁故者出頭のもと、厳修された。

○眞如寺新命住職入寺披露

五月二十日、京都市北区の山外塔頭で、かつては五山十刹の一つにも列せられた眞如寺において、江上正道新命住職入寺披露式典が挙行された。新住職は、昨年五月に本派前宗務総長であった江上泰山師のあとをうけて住職に就任、同時に花園大学国際禅学研究所より本派教学部に転任され、本師故福島慶道前東福寺派管長の小祥忌や東日本大震災一周忌を終えたことから、この度の開催となった。

当日は爽やかな日和のもと、有馬頼底管長猥下、国泰寺派澤大道管長猥下、天龍寺派佐々木容道管長猥下、小林玄徳相国僧堂師家、原田融道東福僧堂師家、天龍寺派榊宗務総長や山本宗務総長をはじめ相国本山一山、縁故寺院、東福僧堂同参僧侶、眞如寺総代、檀信徒ら多数の出席者が臨席し、同寺法堂において式典が執り行われた。新命導師のもと本尊諷経、開山開基・歴住諷経、檀信徒先祖代々諷経、賀儀受けの拝が行われたあと、有馬管長が御垂戒

○臨黄合議所理事会

四月十二日、臨黄合議所理事会が大徳寺に於いて開催され、山本宗務総長が出席した。

○辨財尊天遷座、堂宇改築起工諷経

五月七日、

本山境内鐘楼「洪音楼」西隣の辨財尊天社の修復工事開始に伴う遷座、堂宇改築起工諷経が、山本宗務総長以下内局出仕のもと厳修された。工期は、平成二十五年夏頃までの予定である。



辨財尊天遷座、堂宇改築起工諷経(手前の三棟、右奥は鐘楼)

を、山本宗務総長が祝辞をそれぞれ述べられ、長年の眞如寺護持発展に尽力した泰山閑栖の労をねぎらうと共に、新住職を激励した。

(巻末カラー68ページ参照)

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(平塚景堂執事長)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。法要に先立ち当寺華務花方 珠寶氏による献花が行われ、引き続き管長猥下を導師に、頼光室老大師、山本宗務総長、京都仏教会事務局はじめ一山尊宿により諷経がなされた。

○相国会本部役員会

五月二十五日午後一時より本山会議室において、平成二十四年度相国会本部役員会が開催された。五教区理事の黒田儀重氏を議長に選出して審議に入り、平成二十三年度事業・決算報告、二十四度予算案、事業計画案がそれぞれ承認可決された。

当日の出席者は左記の通り。

理事		顧問	
第一教区	片岡 匡三	平塚	景堂
第二教区	波多野 外茂治	牛江	宗道
第三教区	小川 武義	大谷	昌弘
第四教区	伊藤 彰	五十嵐	祖傳
第五教区	黒田 儀重	藤岡	牧雄
第六教区	欠 席	松本	憲融
他、宗務総長以下内局			

○日田辯財天春季大祭

五月二十八日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭並びにお火焚祭が厳修され、有馬管長猥下を導師に、澤鹿苑寺執事長、矢野教学部長、江上教学部員、佐分庶務部員が出頭して大般若が転読された。当日は好天に恵まれ多くの参拝者があった。

○観音懺法会

本山恒例の観音懺法会が、六月十七日午前七時半より厳修された。方丈工事中の為、本年も大書院にて参拝客は招待せずに行われた。

◆役割

導師	林光和尚	太鼓	玄集東堂
香華	弘祐西堂	大鈹	賢明西堂
自帰	玉龍大和尚	中鈹	昭文座元
打磬	正道西堂	小鈹	宗秀座元
維那	豊光和尚		

○明覚寺齋会・落慶法要

六月二十二、二十三日の両日、北海道旭川市の第三教区明覚寺(山崎義宣住職)において、同寺第一世五十年遠忌並びに第二世超祥忌の合斎会、納骨堂落慶法要、同寺創建百周年慶讃法要、檀信徒総供養の法要が厳修され、本山からは有馬管長猥下、山本宗務総長、矢野教学部長、和田財務部員、荒木教学部員が拝請を受け出頭した。(関連記事42ページ)

○知床三堂法要

六月二十四日、北海道斜里町知床知布泊村において、毘沙門堂・太子堂・観音堂法要が厳



相国会本部役員会



毘沙門堂前での焼香

教学部員が出席した。

○東京別院庫裡落慶並びに方丈・客殿地鎮起工式
七月二十七日、東京別院に於いて、有馬管長
猥下、韜光室老大師、山木宗務総長以下内局員
が出仕し、庫裡落慶並びに方丈・客殿地鎮起工
式が厳修された。今回落慶した庫裡事務棟は、
平成二十三年十月に起工し(円明第九十七号
参照)、鉄筋三階建てで、一、二階には事務室の
ほかに坐禅会や研修会など多目的に使用でき
る部屋を完備している。本年十月より東京維
摩会として、使用が予定されている(後述の東
京維摩会日程参照)。

また同時に行った方丈・客殿地鎮起工式を
うけて、本格的な工事が開始された。方丈・客
殿の竣工は、平成二十六年秋の予定である。

修され、有馬管長猥下、山木宗務総長、矢野教
学部員、和田財務部員、荒木教学部員が出頭し
た。今年で十八回目を迎え、法隆寺大野玄妙管
長、修験宗総本山聖護院門跡宮城泰年管長、法
華宗福昌寺福島泰樹上人他、宗派を超えた多
数の寺院や、地元をはじめ他府県からも在家
の方々のお参りがあった。有馬管長は法要後
の法話の中で三堂法要発起人の故立松和平氏
を偲び、氏が掲げた知床から世界に向かって
の平和祈願を今後もより一層すすめ、核の無
い安全な地球を目指しましょうと呼びかけた。

○同宗連連絡会開催

七月六日、相国寺も加盟している同宗連
『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議)の
二十四年度第一回第一連絡会が、相国寺を会
場にして開催された。当日は、議長教団の浄土
真宗により会議の進行が行われ、主に東日本
大震災後に継続している各教団の取り組みに
ついて意見交換が行われ、矢野教学部長、江上



○東京維摩会日程 平成二十四年の開催日は左記の如くである。

有馬管長坐禅会

十月十三日(土) 十一月十日(土)

十二月九日(日)

会場…東京別院・庫裡事務棟一階

時間…午前十時半より正午頃迄

内容…『無門関』提唱、坐禅、茶礼

威儀…坐禅の組みやすいゆったりした服装

が好ましい。

小林老師坐禅会

〈明治大学にて開催〉

七月二十一日(土) 八月四日(土)

九月八日(土)

〈東京別院・庫裡事務棟にて開催〉

十月六日(土) 十一月十七日(土)

十二月十五日(土)

時間…午後一時より二時半迄

内容…「臨済録」提唱、坐禅、茶礼

威儀…袴を貸与するも、足りない可能性が

ありますので、ゆったりとした服装

でお願い致します。

《会場変更のお知らせ》

小林老師坐禅会の開催場所が、七月二十一日〜九月八日迄の三回に限り変更になります。ご注意ください。

○新会場（七月二十一日〜九月八日迄の三回のみ）

明治大学 駿河台キャンパス 十四号館四階
 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 TEL(03)32696-2668
 担当者 杉野 090-9843-1285

●アクセス

JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線
 御茶ノ水駅より 徒歩3分
 東京メトロ千代田線
 新御茶ノ水駅より 徒歩5分
 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線
 神保町駅より 徒歩5分
 ※駐車場はございません。
 ※尚、十月六日からは、東京別院・庫裡事務棟
 一階での開催となります。

教区だより

第二教区

○是心和尚謝労会

十一月二十九日(火)、大原の旅荘「茶谷」に於て絶好の紅葉の中、是心寺 長尾守峰和尚の謝労会を有志の面々で開催した。和尚は、五十年以上の永きに渡って是心寺住職を勤められたが、十一月二十一日、和田賢明新命和尚にその席を譲られて閑栖された。本山宗務総長を三期九年務められる等、その豊かな経験の一端を当夜我々後輩僧は拝聴した。

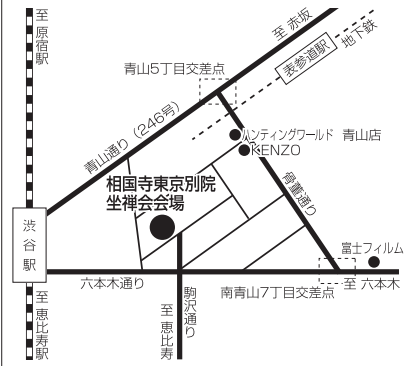
有馬管長猥下から、お軸「慶」を賜わり謝労祝賀会に花を添えて頂いた。

○第二回子供研修会

四月三日(火)、第四教区若狭相国会の子供達とともに、第二回二教区子供研修会を本山に於



後列左から 長栄和尚、桂徳和尚、大光明和尚、竹林和尚
 前列左から 和田賢明新命和尚、長尾守峰閑栖和尚



TEL.03-3400-5858
 会場入口：前入口より50m南側
 会場：庫裡事務棟 1階



慈照寺書院にて

て開催した。昨年と比べると、参加児童十三名と少なくなったが、充実した研修会となった。午後からは、東山慈照寺様を特別拝観させて頂き、普段見ることのできない内部を見て子供達も喜んでいました。次回第三回は、北山鹿苑寺様を特別拝観させて頂く予定である。

○教区総会

四月二十八日(土)午後三時より、九名の住職が参加して大原智蔵院様にて恒例の教区総



智蔵院山門にて

会が開催された。本堂にて諷経したあと、会議に入った。管長猥下御親教の本年度日程の説明、臨濟・白隠両禅師御遠諱に於ける末寺負担金について話し合われた。会議後は、懇親会となり散会となった。

第三教区

○明覚寺先住寺庭逝去

三月二十二日、北海道旭川市の明覚寺先住(故山崎道雄師)寺庭の山崎榮子氏が八十八歳で亡くなられた。氏は、昭和二十一年より長きに亘って寺庭として先住をよく支え、寺院の護持、布教などに尽力し、また道雄師遷化後も更なる寺院発展に勤められた。今般、疾により加療するも薬石功無く天寿を全うされた。

○瑞林寺夢窓國師每歳忌

三月二十五日、三重県津市片田井戸町の瑞

林寺(長谷寺高山宗親兼務住職)では、大本山から緒方香州相国寺史編纂室長、佐分昭文庶務部員を拜請し、開山夢窓國師每歳忌を厳修、



瑞林寺夢窓國師每歳忌

國師生誕地記念碑前において大悲呪一卷を誦するなか、井戸町民がこぞって参列焼香し、盛大に法要が営まれた。当日は天候がやや不順であったが、法要中は好天に恵まれた。

また今回法要後、鈴鹿市三宅町にある夢窓國師遺跡、出生地の一つといわれる天龍寺派輪聖寺跡地の「産湯の井戸」を訪れて、一同國



輪聖寺跡地「産湯の井戸」

師への想いを新たにし、帰路についた。

○明覚寺齋会

六月二十二日、北海道旭川市の明覚寺において、午後五時より有馬管長猥下導師のもと、第一世益道謙禪師大和尚五十年遠忌並びに第二世道雄禪師大和尚超祥忌の合齋会が厳修された。翌二十三日には午前九時より納骨堂落慶法要、引き続き明覚寺創建壹百年の慶讃法要の後、最後に檀信徒総供養の法要が執り行われた。法要後、本堂に於いて記念の祝賀会が行われ、管長猥下はじめ出頭寺院、檀信徒関係者はその喜びを分かち合った。

管長香語、祝語は左の如し。

益道謙禪師大和尚五十年遠諱

香語

独坐雄峯不老禪 独坐雄峯、不老の禪
実巖突兀半空懸 実巖突兀として、半空に懸る
遺芳留在無人解 遺芳留め在るも、人の解する無し

鼻孔遼天五十旋 鼻孔遼天、五十旋

頼底九拜

定中昭鑑

道雄禪師大和尚超祥忌

香語

扶宗護法徳光長 扶宗護法、徳光長し
一別七年情未忘 一別七年、情未だ忘れず
生鐵面皮元不變 生鐵の面皮、元と不變
道人踪跡活商量 道人の踪跡、活商量

頼底九拜

定中昭鑑

納骨堂落慶

祝語

衣香扇影幾楼台 衣香扇影、幾の楼台
萬戸千門名利灰 萬戸千門、名利の灰
生滅有無誰共語 生滅の有無、誰と共にか語らん
紫光金聖太奇哉 紫光金聖、太だ奇なる哉
大龍叟



明覚寺納骨堂落慶「大般若祈禱」

開創百周年慶讃

祝語

無明為父大哉縁 無明父と為して、大いなる哉縁
検束酬恩一百年 検束恩に酬ゆ、一百年
業債重々士峰雪 業債重々たる、士峰の雪
拈成沈水一炉烟 拈じて沈水一炉の烟と成す
大龍叟

○若狭相国会役員会

一月二十八日、若狭相国会役員会を開催し、鎌倉研修、総会日程等について協議した。

○宗務支所支所会

二月十四日、宗務支所支所会を善応寺に於いて開催し、定期巡教及び少年研修会、鎌倉研修、若狭相国会総会日程等について協議した。

第四教区

○若狭相国会役員会

二月二十八日、若狭相国会役員会を開催し、鎌倉研修、総会日程等について協議した。

○若狭相国会役員会

十一月二十七日、定期巡教、少年研修会、鎌倉研修等について協議した。

○若狭相国会「春のお説教会」

三月十日～十二日、若狭相国会「春のお説教会」を定期巡教にあわせて、若狭相国会主催の「春のお説教会」が次の四ヶ寺を会場にして開催された。開教会場は、円福寺、元興寺、潮音院、常禅寺。担当布教師は、東福寺派正満寺蘆田貫道師であった。

○寺院婦人会新年例会

一月十二日、寺院婦人会新年例会を円福寺に於いて開催し、新年度行事について協議した。

○若狭相国会少年研修会

四月三日、若狭相国会少年研修会を本山相国寺、鹿苑寺に於いて開催した。児童五十八名、住職九名、相国会役員六名、計七十三名が参加し、鹿苑寺に参拝後、本山にて坐禅研修、齋座を頂き、開館したばかりの京都水族館にて研修。水族館は、さすがに混雑していたが、子ども達は大変楽しそうであった。

○宗務支所支所会

五月一日、宗務支所支所会を善応寺に於いて開催し、定期宗議会報告、平成二十三年度教区会計決算、鎌倉研修申込者集計等について協議した。

○若狭相国会役員会

四月七日、若狭相国会役員会を開催し、平成二十三年度会計監査及び総会について協議した。

○若狭相国会総会

四月二十日、若狭相国会総会を元興寺に於いて開催し、平成二十三年度会計決算、平成二十四年度会計予算等協議の後、任期満了による役員の改選を行った。今回は、六月に予定されている当地区出身の釈宗演老師の遺徳を偲び、その事績を学んだ。

○若狭相国会役員会

五月三日、若狭相国会役員会を善応寺に於いて開催し、新旧役員引継、鎌倉研修について協議した。

○宗務支所支所会

五月二十二日、宗務支所支所会を善応寺に

於いて開催し、鎌倉研修申込者最終集計及び
研修日程等について協議した。

第五教区への割当分については、出雲相国会
会計から納めることが了承された。

○若狭相国会役員会

五月二十三日、若狭相国会役員会を真乗寺
に於いて開催し、鎌倉研修について協議した。

第六教区

○安国寺齋会

三月二十六・二十七日に、鹿兒島県始良市加
治木町の安国寺(南洲寺矢野焔恵兼務住職)に
於いて、星原玄省和尚七回忌の宿忌・半齋法要
を行った。二十六日は、午後四時より宿忌法
要後墓参諷経、また二十七日は、午前十時より
矢野兼務住職を導師に、教区寺院が出頭し、親
族、総代出席の中、半齋法要(楞嚴呪行導)が厳
修された。

第五教区

○相国会出雲支部総会

五月十一日、西光院(出雲市斐川町)に於
いて、教区内寺院住職・役員が出席し、平成
二十四年度出雲相国会総会を開催した。

総会では、平成二十三年度事業報告・決算報告
に引き続き平成二十四年度事業計画・予算が
審議され承認された。主な今年度の事業は、夏

○六教区寺院懇親会

四月二十五日、第六教区住職懇親会を霧島
に於いて開催した。本山関係の事務等会議終
了後、懇親会となった。

休み親子坐禅会、本山団体参拝、会報発行等を
予定している。

その他に臨濟禪師・白隠禪師遠諱負担金の

相国寺史編纂室設立の経緯

相国寺史編纂室長 緒方香州

中世史において五山やそれを代表する相国寺が如何に大きな存在であったかはよく知られており、
それゆえ中世期の研究は数多く、原史料の出版もかなり行われている。しかし近世以降をも対象
とする体系的な通史の類は事実上存在しない、のみならずその原史料の出版すら行われていない。

歴史を鑑かがみとするということはよく言われることであるが、この現状ではまともな歴史観の形成や、
宗門人としてのアイデンティティの確立などできる訳もなく、あいまいな日常業務の中に埋没し、
社会にとりのこされていくだけであるとの反省がなされ、中世のみならず近世以降も対象とする
相国寺の通史をと望む気運が高まった。

そこで相国寺教化活動委員会が設置され、寺史のみならず宗門をとりまく諸種の状況に対処す
る為の講義が行われる様になり、寺史についても新史料の『西笑和尚文案』の出版や研究も数冊出
版されるに到った。

しかしこれだけでは宗派として或いは寺院として僧侶・檀信徒としてのアイデンティティを確
立するという訳にはいかず、やはり本格的な寺史の編纂がより一層求められる様になった、という
より迫られる様になっているというのが実情である。

そこで平成二十二年秋より「相国寺史編纂室」が設置され、日本史の専門家である藤田和敏氏、
中井裕子氏の二名の専任研究員によって史料の収集整理と寺史編纂が進められることになった次

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話(075)221-4587 FAX(075)223-0094 フリーダイヤル(0120)014587</p>	<p>臨濟宗御法衣調達 大本山相国寺御用達</p> <p>湯浅法衣店</p> <p>〒606-0905 京都市左京区松ヶ崎杉ヶ海道町5-24 電話(075)705-2772 FAX(075)705-2773</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園(株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話(075)462-1385 FAX(075)464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾 治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話(075)841-2144 FAX(075)841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p>
<p>總本山御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話(075)221-3735(代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p> <p>澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表)(075)462-3915番 ファクシミリ(075)462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都(075)441-0563 FAX京都(075)441-0571</p>

第である。無論今日の事業に先行する小島文鼎師ぶんていによる、中世を対象にした『相国寺史料』全十一巻が存在することは十分周知のことであるが、しかし敢えて言えば今日の宗門の方々、これを讀もうにも殆ど齒が立たぬであろうことは想像に難くない、何故なら師自身は漢文や故事に通曉し解説などは必要としなかったが、今日の宗門人がこれを読み部分的に理解できても、相国寺史の中世だけでも歴史観を形成することは不可能であろうし、そうであれば宗門人としての自覚を持つことなどできぬことは自明の理である。

幸いなる哉、今回の寺史編纂事業の指導者として関西大学教授の原田正俊氏、華頂短期大学教授の伊藤真昭氏をお迎えできたのは、何にも勝る幸運としかいいようのないことである。というのは、原田教授は本派寺院の出身で中世禅宗研究の専門家であり、また伊藤氏は研究のテーマが相国寺中興の祖、西笑承兌せいしやうじやうたであり、その研究の第一人者であることから、これ以上の強力なスタッフは考えられないことになる。

現在、藤田氏によって本山の各所に分置されていた史料の収集整理が進められており、順次各所の調査も予定されているので、その際は各位の協力をお願い申し上げます。次第である。



編纂室作業風景



二条城のほとりに
寛ぎがある

京都全日空ホテル

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
ご予約、お問い合わせは (075) 231-1155
<http://www.ana-hkyoto.com>

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

創業明暦年間



株式会社 七味家本舗
〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352
ゴヨウハシチミヤ
☎0120-540738
9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

〒604-1835
京都市中京区大宮通錦上ル
電話〇七五―八二―一三八七二

精選料理
上
常



社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える――

ヨシダ印刷グループは、生産力・機動力・開発力・発想力を結合し、
お客様の最適な情報伝達のために、
なくてはならない製品・サービスを提供する事で、
社会の発展に貢献します。



ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572-4 NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421
[本社] 金沢 [支店・営業所・工場] 東京・金沢・大阪・京都・富山・福井 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**
<http://www.kyotobank.co.jp/>



二条城前のロケーション
温かいおもてなしでくつろぎのひとつときを…

お食事・ご婚礼・各種パーティーに
ぜひご利用下さいませ

京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前
TEL.075-222-1111(代)
<http://www.kyoto-kokusai.com>

あなたの、豊かな
人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継

 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

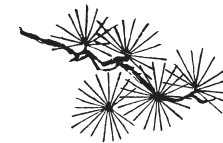
届出第6号 (一社)不動産協会会員 (一社)不動産流通経営協会会員
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

〒600-8006
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松 紫 堂**

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店/東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店/札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞29回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねんのみどり
萬年乃翠

御薄茶

じょうこう
常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)20・0909
・ジェイアル京都伊勢丹店
地下一階 銘茶コーナー
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
・京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)223・0909
取扱店 全国有名茶店・茶道具店
<http://www.marukyu-koyamaen.co.jp>

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今葉屋町318
TEL(075)254-6021(代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

● 編集後記 ●

◇今号でご報告した「消防訓練」は、実に八年振りの大がかりなものであった。六百年を超える歴史を灰燼に帰さないためにも一山僧侶、職員らによる防火体制を万全にしておかなければならない。昨年度開設された「相国寺史編纂室設立の経緯」を、緒方香州室長にご説明頂いた。相国寺の史料は膨大であるが、室長はじめ研究員各位の粘り強い研究と編纂により、寺史に新たな光が当たることと期待している。

さて円明は、来年夏に発刊第100号を迎える。編集部では記念特集号を組む予定であるが、本派各寺院をはじめ相国会檀信徒の皆様への投稿を大いに歓迎する。応募の詳細は、次号でお伝えする。

◇ところで話は変わるが、五月にNHKの番組『宇宙の渚』を見た。地球は、太陽からくる高温の風“太陽風”やX線・紫外線という生命にとって危険な電磁波に対し、地球の持っている磁場や、幾重にも重なった大気が地表を守るバリアの役割を果たしているという。地球上の全ての生命は、それによって生かされている。人類も例外ではない。ひところ“地球にやさしく”というフレーズをよく耳にした。今でも、自社のイメージアップのために使用している企業もある。宣伝はさておき、我々が地球にやさしくすることなど当然不可能である。むしろその言い方は、なんとなく上から目線の言葉にさえ感じる。まだ“もう地球を傷つけない”とか“地球に迷惑かけない”の方が、いくらか馴染む気がする。二十世紀以降発達した文明が、生活環境の向上に比例して地球に与えた悪影響は計りしれない。まさに瀕死の状態になりながらも、地球は黙って生命を支え続けている。

この生かされている命は、他方連綿と繋がっていくものでもある。今ある自分は、先祖からの命のバトンである。仏教の盂蘭盆会は、先祖にお参りし、亡くなった者へ思いを馳せる行事である。そのことは“命”の有ることが実は得難いことであり、生かされていることを素直に感謝する一年に一回の機会でもある。日本人なら墓地を掃除して、墓石を洗い、雑草を抜き、水を換えて、お供えをして、蠟燭をともし、香を焚いて、墓前で合掌するは感謝の心の自然なあらわれである。

◇暑さ厳しき折、相国会檀信徒の皆様にはお見舞い申し上げます。

お年寄からお孫さんまで、たとえ一年に一度でもお仏壇、お墓にお参りされ、心静かにご先祖様と向き合ってくださいと念じる次第であります。 (矢野謙堂 記)

えん みよ 平成24年夏号(第98号)
円明 平成24年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



Your Global Lifestyle Partner

～お客様の感動を創造します～

国内旅行

宇宙旅行

JTB

海外旅行

大会幹旋

JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町 670 京都フクトクビル 5 階
TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564

(営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日休業)

びわ湖温泉 紅葉 Koyo

〒520-0023 滋賀県大津市茶が崎4番3号
0800-919-8111
FREE
<http://biwako-koyo.com>

◆研修会

平成二十四年前期研修会は、佐藤優氏による四回の講座が承天閣二階講堂において予定通り行われました。午後一時三十分から三時まで講義、その後質疑の時間が設けられました。

佐藤優氏 「危機の時代における宗教」

- 第一回 二月 八日(水) 「危機の時代における宗教」
- 第二回 三月 二十八日(水) 「救済宗教の特徴」
- 第三回 五月 十六日(水) 「民族と宗教」
- 第四回 七月 四日(水) 「国家と宗教」

いずれの講座も多くの参加者があり、元外務省主任分析官、外交官として長く政治に関わってこられた経験を基にした、宗教と政治についての講座は、我々僧侶にとって実践的で、示唆に富む講座となりました。



櫻井圀郎氏 「僧侶に必要なリーガルマインド、僧侶のための法律知識」

本年四月より来年にかけて、宗教者のための法律講座を設けました。私たちのまわりを見渡せば、宗教に関わる様々な問題が裁判になり、不当な判決に悩まされている事例が多く見受けられます。宗教者は法律についての知識が乏しく、法律家、弁護士もまた宗教に対する理解がないことから、対処を誤ったために宗教側が不利益を被っている事例がおおく見受けられます。まずは僧侶が法律知識を身につけ、これらの問題と取り組む姿勢が重要です。

相国寺教化活動委員会では、これまで宗教に関わる様々な法律問題の解決に取り組んでこられた櫻井圀郎氏を講師に迎え、宗教者、僧侶に必要な実践的法律知識を身につけて頂くことを目的に十六回の特別講座を開設することになりました。宗派にとどまらず、広く他宗派、他宗教の方々と、弁護士、宗教関係者もご参加頂き、お互いに研鑽して頂くことで、宗教界の活性化につながればと思います。一人でも多くの意欲のある方々のご参加を期待致しております。

すでに、講座は第四回まで終了いたしました。いずれも多数の参加者があり、活発な質疑応答や、さまざまな具体的な問題点が提示されるので、今後、この講座に反映させ、講座の充実を図りたいと考えています。



平成二十四年 四月十九日(木)(第一回)総論(終了)

「教法同源」→宗教と法律は本来同一。両者を分離した近代国家の混乱」

「東西の法意識」→中国の律令と西欧の法律の根本的な相違。明治以降の混乱」

五月十日(木)(第二回)民法一(終了)

「法人とは何?」→個人と法人の違い。営利法人と公益法人と宗教法人」

「Yesか? Noか?」→意思中心の西欧法。日本の曖昧さとのギャップ」

五月二十四日(木)(第三回)民法二(終了)

「怠け者は権利を奪われる」→取得時効と消滅時効。除斥期間、申請期間」

「隣地との関係」→法律で定められているお互いの権利と義務」

六月二十二日(金)(第四回)民法三(終了)

「僧侶と寺院・宗門との法律関係」→雇用、委任、請負、派遣」

「信仰と契約意識」→宗教音痴が招いた、オレオレ詐欺や消費者被害」

八月二十三日(木)(第五回)民法四

「寺院の忘れ物・預り物と不測の事故にどう対応?」→事務管理と不法行為」

「檀家の家族問題」→婚姻、離婚、親子、養子、特別養子、禁治産、後見」

九月六日(木)(第六回)民法五

「高齢者の介護と福祉」→扶養義務、成年後見」、「相続と遺言に関する基礎知識」

十月二十五日(木)(第七回)刑事法

「僧侶なら知っておきたい」→刑法で寺院や宗教活動が守られている」

「僧侶なら知らない」→刑法で守られる信徒、刑法で禁じられる行為」

「突然来られても驚かないために」→逮捕とは? 刑務所・少年院とは?」

十一月九日(金)(第八回)行政法一

「僧侶への課税」→所得税と贈与税に関する基礎知識」

「寺院への課税」→法人税と固定資産税に関する基礎知識」

「宗教活動への課税」→法人税と消費税と印紙税に関する基礎知識」

十一月二十九日(木)(第九回)行政法二

「都市計画法と寺院」→境内建物の建築規制。建築基準法・消防法」

「墓地埋葬法と寺院」→墳墓と納骨堂と墓地と霊園、水葬・自然葬・樹木葬」

十二月六日(木)(第十回)行政法三

「宗教法人とは何か?」→他の法人と宗教法人の決定的な違い」

「区別が必要な、宗教団体と宗教法人」→両者の混同が混乱を招く」

平成二十五年

一月十七日(木)(第十一回)行政法四

「国法と宗法」→両者の位置づけと意味・効力。知られていない宗法の問題」

「寺院と文化財」→宗教活動と文化財の保護にからむ権利と義務」

二月七日(木)(第十二回) 知的財産法

- 「『境内では撮影禁止』は有効か?」→違反して撮影した写真はどうか?」
- 「境内建物を撮った写真」→著作権、意匠権、パブリシティ権、宗教的権威」
- 「僧侶を撮った写真」→肖像権、パブリシティ権、プライバシー、著作権」
- 「信徒・参拝者を撮った写真」→肖像権、プライバシー、パブリシティ権」
- 「説教と著作権」→録音・録画・筆記・印刷・出版・放送・ネット掲示」
- 「特許権・実用新案権・意匠権・商標権・氏名権・パブリシティと著作権」
- 二月二十一日(木)(第十三回)社会法一
- 「寺院の広告・CMは禁止?」→知られていない新聞広告基準・民間放送基準」
- 「宗教活動と商取引の狭間で」→特定商取引法・風俗営業法などの適用」
- 三月 日()日程未定(第十四回)社会法二
- 「宗教活動と社会問題」→青少年健全育成条例・暴力団排除条例など」
- 「国際関係と宗教」→旅券法、出入国管理法、外国人登録法、関税法など」
- 四月 日()日程未定(第十五回・第十六回)憲法一・二
- 「知っておきたい基本的人権」、「『信教の自由』とは何か?」
- 「寺院に意味のある『罪刑法定主義』『租税法律主義』」

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、質疑は午後三時十分～四時三十分、承天閣美術館二階講堂に於いて開催です。

受講希望者は、氏名、宗派または職業、住所、電話、メールアドレスを明記の上、相国寺教化活動委員会までお申し込みください。相国寺ホームページからもお申し込みできます。

尚、講師の都合によりやむを得ず日程を変更することがあります。

講師 櫻井園郎氏 プロフィール

一九四七年三重県生。名古屋大学法学部、同学大学院博士課程(民法専攻)、東京基督神学校、米国フラー神学大学院神学高等研究院(組織神学専攻)、高野山大学大学院(密教学専攻)。日本長老教会神学教師。東京基督教大学特任教授。日本私法学会、国際消費者法学会、宗教学会、日本基督教学会、福音主義神学会、日本リスクマネジメント学会、日本広告学会所属。国・県・市・公益機関・各種団体の委員・顧問・監事・参事等歴任。

関連の著書論文

『広告の法的意味と広告の経済効果と消費者保護』、『遺言の作法』、『教会と宗教法人の法律』、『宗教活動による不法行為と宗教法人の責任』、『宗教法人法の構造とその問題点』、『葬送法の諸問題』、『資産税課税目的による宗教活動判断の是非』、『ペット供養課税処分取消し訴訟判決と宗教判断基準』、『宗教と税制』、『マスメディア信頼と広告責任』、『公益法人改革三法の概要とその問題点』、『宗教法人の公益性と地方税』、『個人情報保護と個人の情報・秘密』、『パブリシティ責任』、『教会音楽と著作権・著作隣接権』、『伝道牧会とリーガルマインド』、『連載』、『マス

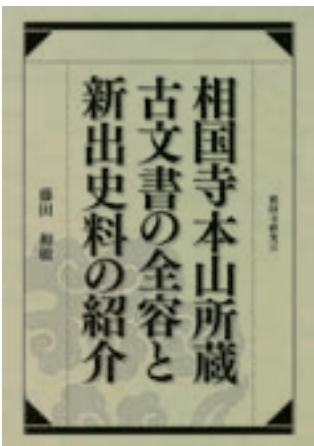
コミ法」、連載「編集者のためのリーガルマインド養成講座」ほか多数。

【講義録】

昨年十一月に開催され前号でお伝えした、相国寺史編纂室研究員、藤田和敏氏の三回の講座の講義録『相国寺研究五 相国寺本山所蔵古文書の全容と新出史料の紹介』が平成二十四年五月十日上梓されました。

本書の内容

- 第一章 相国寺本山所蔵古文書の概要
- 第二章 江戸時代における臨濟宗の本末関係と相国寺
- 第三章 本末関係と師弟関係を考える



これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、手数料一千元を添え、下記の相国寺宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五―三三―一〇三〇一

FAX〇七五―二二―三三九九一

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

承天閣だより

Jotenkaku Museum

七類堂天谿展



観覧する有馬管長、森清範清水寺貫主、七類堂天谿氏

平成二十四年四月七日～六月十七日まで、七類堂天谿展―奕々たるその神彩、仏画・道釈画の世界を―を開催。

この間一万人の拝観者が訪れ、当代随一の道釈画家「七類堂」の画に魅了された。



七類堂天谿展示風景

現在の展観

伊藤若冲筆 釈迦・文殊・普賢三尊像と

釈迦・文殊・普賢三尊像コロタイプ印刷複製特別展示

☆ワシントン「桜祭り」出品記念

(明治四十五年 桜六千本アメリカへ寄贈一〇〇周年記念)

九月九日まで会期中無休

次期展観予告

会津八一展 (会津八一の書画の世界)

八一は大正から昭和の歌人・書家・美術史家。新潟県生まれ。早稲田大学で東洋美術史を講じ、かたわら奈良の古寺・古仏を歌った。京都では初公開。御清覧下さい。

重要美術品

古染付高砂手花入

鹿苑寺蔵

古染付とは、中国明代末より清朝初期、江西省景德鎮の民窯で焼かれた染付磁器をいう。民窯ゆえに官窯のものとは趣を異にし、模様は自由で雅趣があり、茶人に好まれた。多くは江戸時代前期に日本からの注文によって造られ、これらが渡って来ている。

この花入、鯰耳で頸部には老翁と老婆が裏表に描かれている。胴部に描かれた樹木を相生の松に見立て、能楽「高砂」に結び付けて名付けられたのであろう。茶会の床の間で、花と共に客の目を引く。藤田家に旧蔵された名品。

解説／承天閣事務局長 鈴木景雲



Itō Jakuchū ワシントンD.C. 若冲展法要



ナショナルギャラリー展示室で行われた記念法要

(本山日より30ページ参照)

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

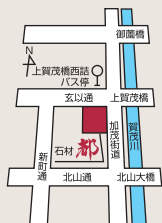


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 (上賀茂橋西詰バス停前) ヨクソ ヨイシ 電話(075)491-4114(代)
 工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 (洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
 夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



相国寺山外塔頭 眞如寺
江上正道新命住職入寺披露

平成二十四年五月二十日 於法堂

写真撮影：柴田明麗氏



(本山だより)33ページ参照

境内の池に群生する満開のカキツバタが式典に花を添えた。